

大会企画パネルセッション

子どもの日本語教育と教材

—日本語と教科内容を学ぶ子どもたちのために—

1. 本パネルの趣旨

日本語指導が必要な児童生徒数（文科省、2019）は、外国籍・日本国籍を合わせるとついに5万人を超えました。新聞・テレビ等のメディアで関連する話題を目にすることも増え、子どもの日本語教育が日本社会の一つの課題として認識されつつあることを日々感じます。そのような中、子どもの日本語指導や教科学習支援などをいかに効果的に行うかという実践的課題に目を向けると、対応すべき問題は山積みです。本パネルでは、子どもの日本語指導や教科学習支援においては、欠かすことのできない教材をテーマとして取り上げます。その際、日本語や英語などを対象とした第二言語教育の世界で最近注目されている CLIL（Content and Language Integrated Learning、内容言語統合型学習）の視点も取り入れ、日本語と教科内容を同時に学んでいかなければならない学齢期の子どもたちを対象とした日本語教育ならではの課題について考えたいと思います。近年、子どもを対象とした日本語教材の出版が増えてきているとは言え、個々の教材紹介やリスト作成にとどまらない、まとまった議論はまだほとんど見られません。本パネルが今後の議論の発展につながることを期待し、今回は、子どもの日本語教育に関して教科書や教材作成に取り組んでこられた方々、CLILを成人対象の日本語教育の場で実践されてきた方、計4名のパネリストに話題をご提供いただきたいと思います。

ぜひ会場のみなさまも、子どもの日本語教育の世界においてこれまで注目されてきた JSL カリキュラムやライト教材など、また、ご自身の実践とも関連付けながら、子どもの日本語教育における教材について一緒に考えていただければと思います。

コーディネーター： 西川 朋美（お茶の水女子大学）

2. パネリストの紹介

- ・志村 ゆかり（関西学院大学日本語教育センター）

「子どもたちのキャリアとライフのための言語教育を目指して—『中学生のにはほんご』作成の背景とその特徴—」

- ・田中 薫（とよなか JSL）

「『学習力を育てる日本語教案集』の教材とは—教科との接点をどう考えるか—」

- ・河上 加苗（白鷗女子高等学校）

「私立高校での日本語教育と教材—正規科目としての日本語教育カリキュラムから—」

- ・奥野 由紀子（首都大学東京）

「内容と言語を統合する学び—教材との関連から—」

【引用文献】

文部科学省（2019）「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成30年度）の結果について」 <https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/09/1421569.htm>